

RE-BEL MEISTER 21 SYSTEM

リベルマイスター21工法



実績と信頼のマンション修繕工法

最大の目的は、資産価値の長期維持

マンションの快適な生活環境を保ち続けるためには、定期的な改修工事やメンテナンスが重要です。

『リベルマイスター21工法』は、圧倒的実績に裏付けられた最高品質の外壁改修システム。

建物を劣化させる様々な要因から長期にわたってマンションを護り続けます。

大規模修繕工事の周期を延ばすことで、トータル修繕費用を抑えることができるのです。



リベルマイスター21

JIS A 6021 建築用塗膜防水材の基準を満たします。
「高弾性」と「厚膜」のリベルマイスター21が圧倒的な高性能で外壁を保護。クラックの再発を防ぎ、外からの水の浸入を許しません。



リベルセラトップ

「高耐候性」の上塗「リベルセラトップ」が、防水層の「リベルマイスター21」をしっかりガード。防カビ・防藻機能を備えた超低汚染塗料ですので美観の維持に貢献します。

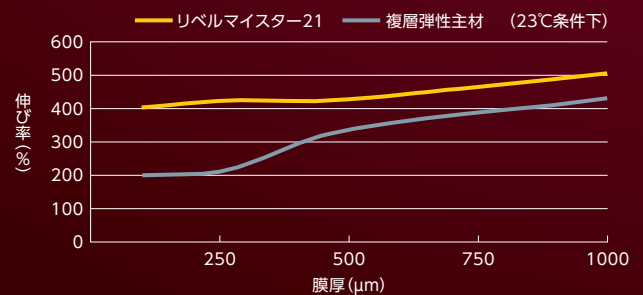


JIS A 6021とは？

正式名称を「建築用塗膜防水材」といいます。主に鉄筋コンクリート造建築物の外壁などの防水工事に用います。主要原料はアクリルゴムで、一般の外壁材と比べ「耐ひび割れ追従性」に圧倒的な優位性を持ち、ひび割れに起因する外壁表面からの雨水の侵入を長期にわたって抑制します。「リベルマイスター21」はJIS A 6021の基準に合格します。

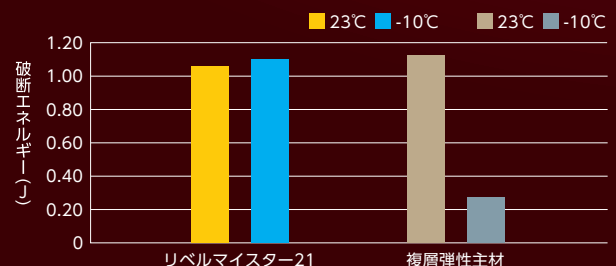
■ 優れた塗膜柔軟性

一般的な弾性塗料と比べ、塗膜厚による変動が少なく、均一な伸び率を示すため、凹凸のある既存膜で、膜厚がつきにくい凹部も凸部と同様の伸びを呈し、クラック追従性に優れます。



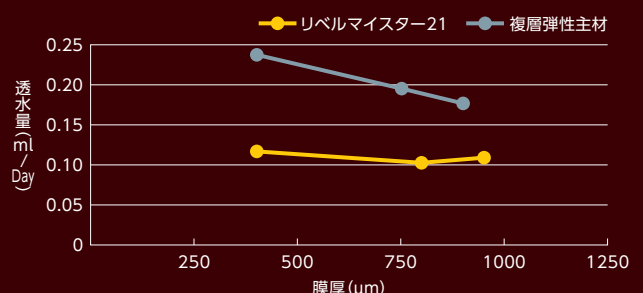
■ 安定した破断エネルギー

一般的な弾性塗料は、低温状態では塗膜が脆くなり破断エネルギーが低下して塗膜にフレが入りやすくなりますが、リベルマイスター21は、温度変化による影響を受けにくく、年間を通して安定塗膜物性を呈します。



■ 優れた外部水遮断性

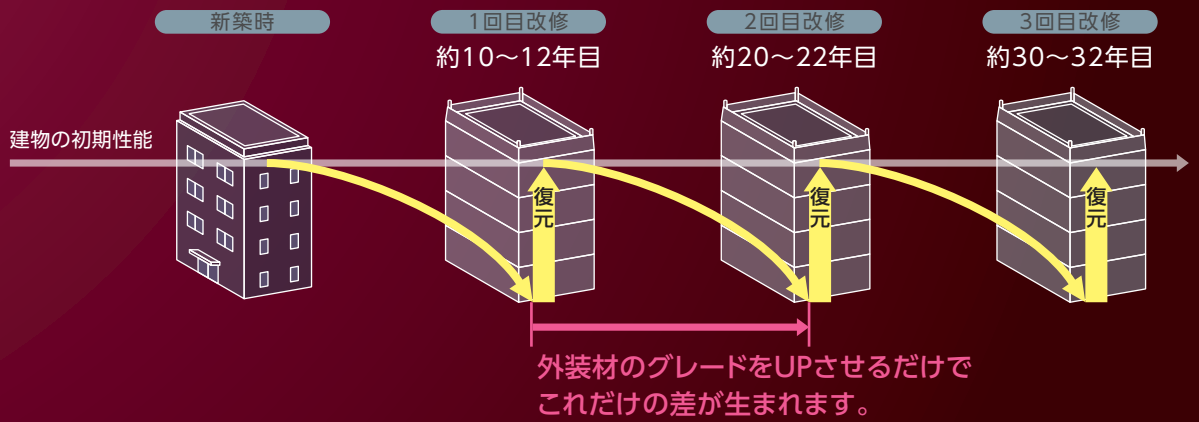
リベルマイスター21は、一般的な弾性塗料と比べ透水量が少なく、また、塗膜厚による透水量の変動幅も少ないので、均一で安定した外部からの水遮断性を呈し、防水性に優れます。



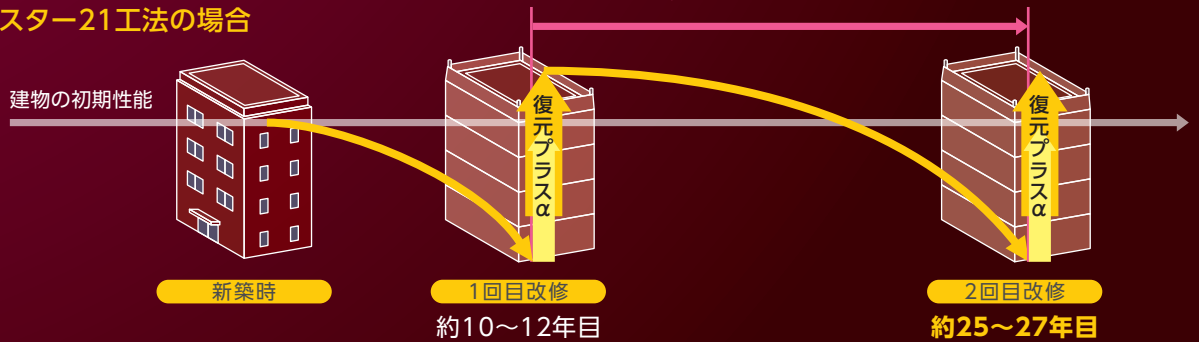
※透水量が少ないほど防水性が高いことを示します。

大規模修繕工事は「復元」から「復元プラスα[改良]」へ

■ 従来工法 (微弾性フィラー工法) の場合



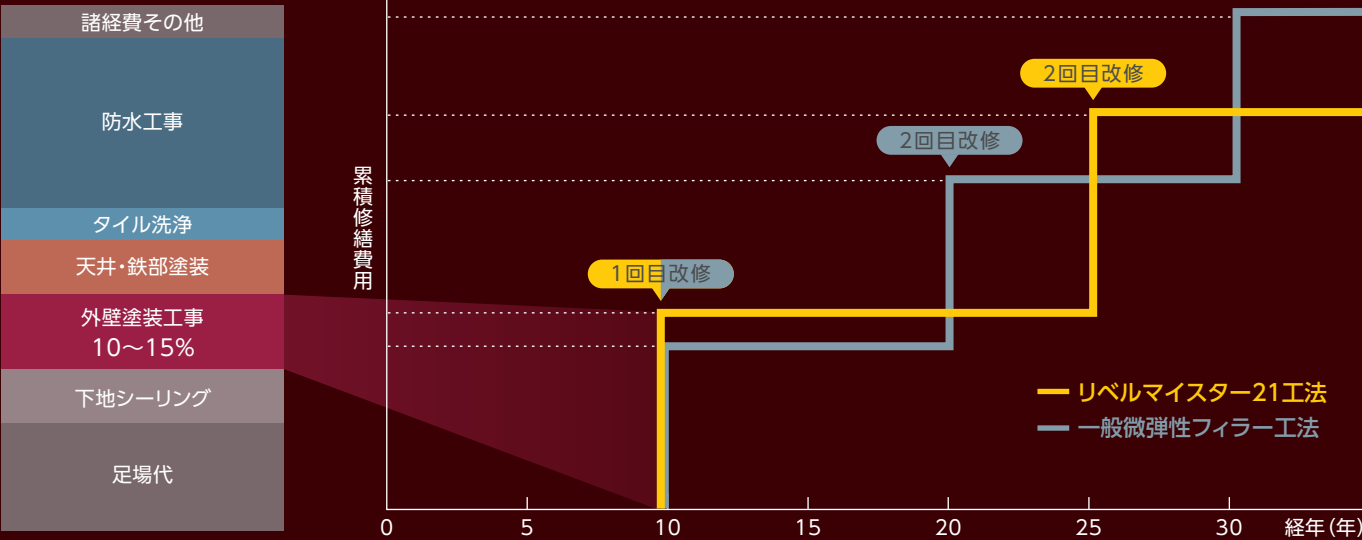
■ リベルマイスター21工法の場合



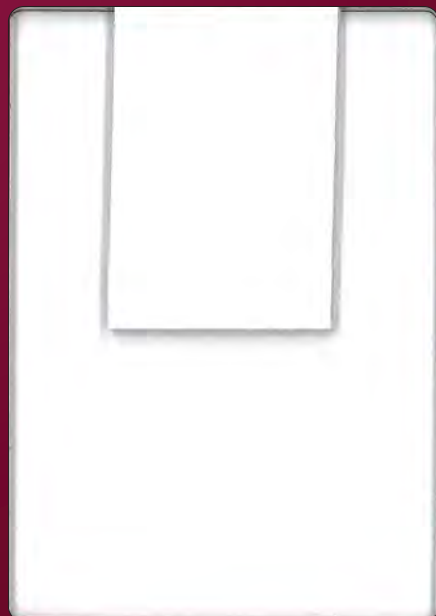
長期マンション外壁改修コスト比較シミュレーション

リベルマイスター21工法は一般微弾性フィラー工法に比べ、外壁塗装工事として2割程度割高(大規模修繕工事全体比では3%程度の割高)となりますが、メンテナンスサイクルが長くなるため長期修繕コストとしては有利です。

大規模修繕工事 費用割合例
(100戸程度の平均事例)



高弾性塗膜(ひび割れ追従・防水性)+高耐候・超低汚染塗膜



リベルマイスター21の
弾力性を
お試しください

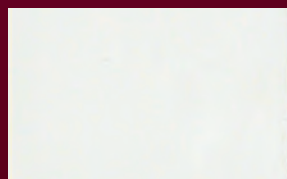


超低汚染・高耐候
リベルセラトップ
SiII/FII
荷姿 15kg
(ベース:硬化剤=14:1)

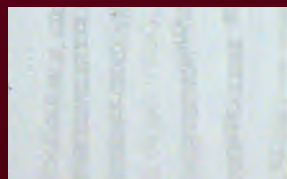
防水・ひび割れ追従
リベルマイスター21
荷姿 16kg

旧塗膜

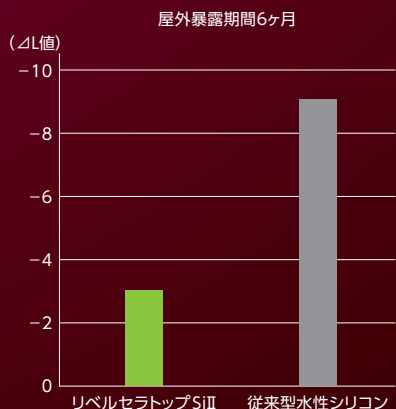
■リベルセラトップSiIIの超低汚染性



リベルセラトップSiII



従来型水性シリコン

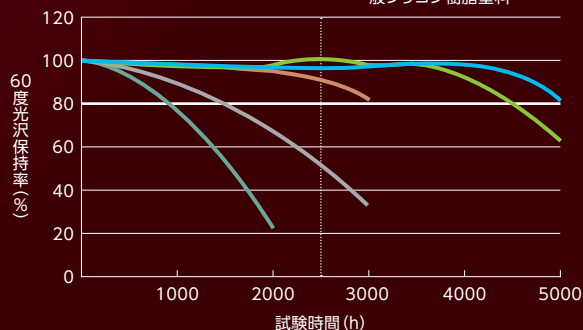


※ ΔL値: 試験初期と試験後の白さの比較値。
数値が低いほど汚れが少ない。
※ 0~2: ほとんど汚れていない。 ※ -5~-10: 汚れが分かる。

■リベルセラトップSiII/FIIの優れた耐候性

キセノンランプ法による耐候性試験 (色合い:白)

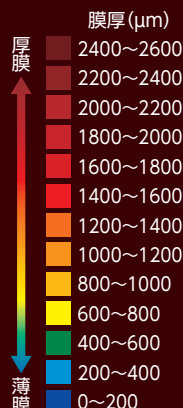
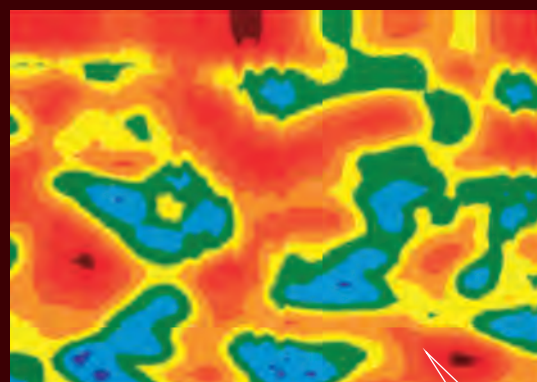
リベルセラトップ FII 一般ウレタン樹脂塗料
リベルセラトップ SiII 一般アクリル樹脂塗料
一般シリコン樹脂塗料



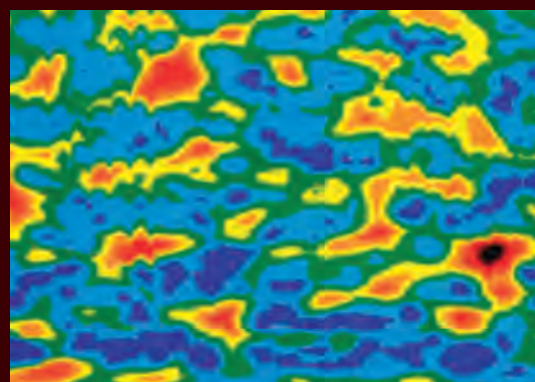
※ JIS A 6909 耐候形1種合格レベルは、試験時間2500時間で光沢保持率80%以上

レーザー変位計による膜厚分布解析

リベルマイスター21 ※主材1回塗り



従来6021主材



膜厚の薄い部分が少ない ▶ ボリューム感がある 下地保護性能が高い



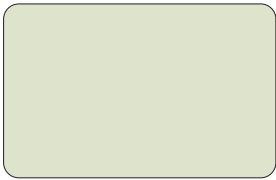
KP-111



KP-110



KP-112



KP-223



KP-310



KP-121



KP-133



KP-221



KP-120



KP-127



KP-131



KP-80



KP-337



KP-336



KP-141



KP-247



KP-330



KP-147



KP-350



KP-75



KP-347



KP-150



KP-352



KP-70



KP-356



KP-357



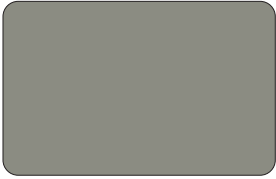
KP-368 ◎



KP-50



KP-367



KP-167



KP-376



KP-379 ◎



KP-170



KP-385 ◎



KP-185 ◎

※この色見本は、紙に塗装していますので
実際の仕上りと多少異なります。
提案色以外でも日本塗料工業会色見本帳
などでの調色も可能です。
◎印は、材料費が割高になります。
見本帳の有効期限は2026年9月です。

標準塗装仕様

標準外壁改修仕様

工 程		塗料名・処置	塗装回数	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (重量%)
1	素地調整	クラック、鉄筋の露出、漏水などの部分に適切な処理を施す。 劣化塗膜をケレン工具（皮スキ、ワイヤーブラシ）で除去し、ホコリ、汚れなどを高圧水洗で取り除き乾燥した清浄な面とする。					
2	主材(1)	リベルマイスター21	1	0.8～1.5	16時間以上7日以内	多孔質ローラー	上水 2～4
3	上塗（シリコン樹脂系）	リベルセラトップSⅢ（ベース:硬化剤＝14:1）	2	0.12～0.17	4時間以上7日以内	ウールローラー	上水 3～10
3	中塗	リベルセラトップF中塗	1	0.13～0.17	2時間以上7日以内	ウールローラー	上水 3～8
4	上塗（フッソ樹脂系）	リベルセラトップFⅡ（ベース:硬化剤＝14:1）	1	0.12～0.17	—	ウールローラー	上水 3～10

※標準所要量は、被塗物の形状や下地の状態、塗装方法、環境などによって増減することがあります。

JIS A 6021 外壁防水改修仕様（ローラー工法）

工 程		塗料名・処置	塗装回数	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (重量%)
1	素地調整	クラック、鉄筋の露出、漏水などの部分に適切な処理を施す。 劣化塗膜をケレン工具（皮スキ、ワイヤーブラシ）で除去し、ホコリ、汚れなどを高圧水洗で取り除き乾燥した清浄な面とする。					
2	主材(1)	リベルマイスター21	1	1.2～1.5	16時間以上7日以内	多孔質ローラー	上水 2～4
3	主材(2)	リベルマイスター21	1	1.2～1.5	16時間以上7日以内	多孔質ローラー	上水 2～4
4	上塗（シリコン樹脂系）	リベルセラトップSⅢ（ベース:硬化剤＝14:1）	2	0.12～0.17	4時間以上7日以内	ウールローラー	上水 3～10
4	中塗	リベルセラトップF中塗	1	0.13～0.17	2時間以上7日以内	ウールローラー	上水 3～8
5	上塗（フッソ樹脂系）	リベルセラトップFⅡ（ベース:硬化剤＝14:1）	1	0.12～0.17	—	ウールローラー	上水 3～10

※標準所要量は、被塗物の形状や下地の状態、塗装方法、環境などによって増減することがあります。※本仕様書には主材塗の塗付量を1.2kg/m²以上と確保してください。

※JASS 8 L-AW仕様に適用させる場合は、下塗に「アレス水性ゴムウォールシーラー」を塗装してください。

塗膜性能 <JIS A 6021 外壁用塗膜防水材（アクリルゴム系）試験結果>

項 目		試験成績	規格
引張性能	引張強さ (N/mm ²)	23℃	1.8
		-20℃	5.3
		60℃	1.3
	破断時の 伸び率 (%)	23℃	590
		23℃	340
		-20℃	180
	破断時の つかみ間の 伸び率 (%)	60℃	230
		60℃	230
引裂性能	引裂強さ (N/mm)	11.4	6.0以上
加熱伸縮性状		伸縮率 (%)	-0.5
劣化 処理後の 引張性能	引張 強さ比 (%)	加熱処理	106
		促進暴露処理	100
		アルカリ処理	122
		アルカリ処理	122

リベルセラトップSⅢ/FⅡの気温と実用上の可使時間（希釈率3～10%時）

条 件	気 温	実用上の可使時間	混合24時間後の塗料状態
高温時	30℃以上	混合後3時間以内	ゲル状
常温時	15℃～30℃	混合後5時間以内	ゲル状～増粘
低温時	5℃～15℃	混合後7時間以内	やや増粘～変化無し

※5℃以下では、あらかじめ塗装を避けてください。

施工上の注意事項	
①リベルセラトップSⅢ/FⅡはベースと硬化剤を指定の比率で混合し、電動ミキサーで均一に攪拌してからご使用ください。ベースと硬化剤の混合比率が不適切であったり、指定以外の塗料を混合したり、攪拌が不十分であった場合、本来の機能が得られませんのでこれを遵守してください。	ど、いくつかの条件が重なることで塗膜のふくれが生じることがあります。旧塗膜をラッカーシンナー拭きして簡単に塗膜が再溶解する場合は、まず下塗りに「マルチタイルコンクリートプライマー-EPQ」を塗装し、その後、標準仕様での施工を行ってください。また、旧塗膜の種別・状態によりあらかじめシーラーが必要となる場合があります。
②リベルセラトップSⅢ/FⅡは過希釈の場合、ハジキ・光沢低下などを生じる場合がありますので、所定の希釈率を遵守してください。また当該現場で一度定めた希釈率はなるべく同一にしてください。	⑧シーリング面への塗装は極力避けてください。汚染や粘着、フレの原因となります。やむをえず塗装する場合には、ノンブリードタイプのシーリング材を用いることとし、[シープラ]または「マルチタイルコンクリートプライマー-EPQ」をバインダーとして挟むことで不具合を軽減することができます。
③リベルセラトップSⅢ/FⅡは塗装後1～2日は、塗膜表面に若干の粘性が残りますので、粉じんなどの付着にご注意ください。尚、塗り重ね、塗膜性能に支障はありません。	⑨ハゲ塗りや補修塗りを行う際、ローラー塗りとは仕上り肌の違いによる色相差が生じることがあります。
④気温5℃以下、湿度85%以上、降雨、降雪、強風が予想される場合は、あらかじめ塗装を避けてください。	⑩塗装用具などの洗浄で上水で落ちにくい場合は、ラッカーシンナーを用いてください。
⑤リベルセラトップSⅢ/FⅡは低汚染機能は乾燥塗膜により発現しますので、塗膜乾燥過程で降雨にあった場合、汚染の原因となる場合があります。この場合は適切な養生を行うなどして、直接雨があたらずに処置を講じてください。	⑪リベルセラトップSⅢ/FⅡの硬化剤は第4類第2石油類となりますので危険物貯蔵所に保管してください（ベース、硬化剤混合後は非危険物扱いとなります）。
⑥リベルセラトップSⅢ/FⅡは雨が直接かからない面や笠木などの水切りが施されていない部位など、建物の形状により低汚染性が十分に発揮できない場合があります。	⑫リベルセラトップSⅢ/FⅡは施工時の気温条件により、ベース/硬化剤混合後の可使時間（塗料の状態）に差が生じますが、本来の低汚染機能を発現させるために実用上の可使時間を遵守してください（特に高温時は留意してください）。また、リベルマイスターの可使時間は23℃で4時間、5～10℃で8時間です。
⑦リベルセラトップSⅢ/FⅡは高温（40℃以上）及び低温（-5℃以下）での保存は避けてください。また硬化剤は低温環境で長期貯蔵すると白濁することがありますが、容器を濡らし、液温を20℃以上にすることにより均一透明に戻ります。	⑬塗り替えて下地が脆弱な場合、吸い込みが大きい場合、下地補修部にはシーラーを塗装してください。
⑧軽層モルタル、ALCパネル、高断熱型産業サイディング及び発泡ウレタンなどを使用した壁断熱工法などの「高断熱型外壁」を塗り替える際、旧塗膜が溶剤系アクリルタイプである場合は、蓄熱や水の影響、塗装後の環境な	⑭汚れ、傷などにより補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の控えは必ずとっておき、同一塗料、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
ご使用上の注意事項	

下記の注意事項を守ってください。詳細な内容については安全データシート（SDS）をご参照ください。

予 防 策	取り扱い作業中・乾燥中ともに換気のよい場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具（帽子・保護メガネ・マスク・手袋等）を着用し、身体に付着しないようにすること。
	吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
	皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・スリ巻きタオル・長袖の作業着・前掛けを着用すること。本来の目的以外に使用しないこと。
	指定材料以外のものとは混合（多液品の混合・希釈等）しないこと。 缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやツックで吊り下げたりしないこと。 取り扱い後は、洗眼、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。 使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。 本品の付いた布類や本品の缶等には水に濡して処分すること。
対 応	目に入った場合：直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。
	皮膚に付着した場合：直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。

関西ペイント販売株式会社

関西ペイントホームページ
www.kansai.co.jp

北海道 TEL (0133) 64-2424 FAX (0133) 64-5757
東北 TEL (022) 287-2721 FAX (022) 288-7073
北関東圏 TEL (028) 637-8200 FAX (028) 637-8223

東京 TEL (03) 5711-8905 FAX (03) 5711-8935
中部 TEL (052) 262-0921 FAX (052) 262-0981
大阪 TEL (06) 6203-5701 FAX (06) 6203-5603

中国 TEL (082) 262-7101 FAX (082) 264-3285
四国 TEL (0877) 24-5484 FAX (0877) 24-4950
九州 TEL (092) 411-9901 FAX (092) 441-3339

※本カタログの内容については、予告なく変更することがありますのであらかじめご諒承ください。

(23年09月14日POM) カタログNo.623

頒布価格 1,500円(税別)